

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 24

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.24

全北海道教職員組合

2019. 11. 25

変形労働導入アンケート開始から1か月(11/24)

**異常な長時間労働の改善について、
職場で、地域で、ともに考えよう**



●アンケート開始から1か月～多くの切実な声が寄せられました

公立学校への変形労働制導入について、道教組・道高教組が緊急アンケートのとりくみを始めてから、1か月がたちました。この間、アンケートには123件の回答が寄せられました。

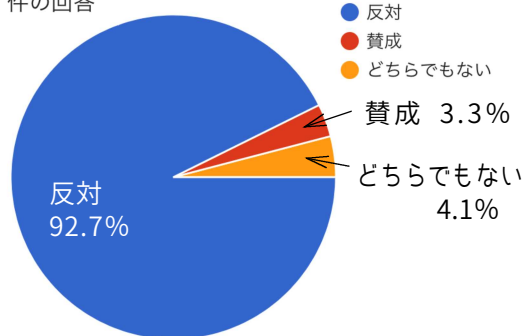
反対意見は114件(92.7%)、賛成意見は4件(3.3%)、どちらでもないが5件(4.1%)となっています。

「現場の声を聞いてほしい」という悲痛な声が、多く寄せられました。「賛成」「どちらでもない」の意見も、この異常な長時間労働を何とかしたいという思いは同じであることが分かりました。

変形労働導入の問題点を多くの仲間と共有するとともに、私たちの異常な長時間労働をどのように解決していけばよいか、職場や地域での議論を広げていきましょう。

公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入することについて

123 件の回答



●アンケートに寄せられた声より

①変形労働導入に反対

- 現場を知らない東京の役人の発想です。内実が変わらない限り何の効果もなく、かつ、倒れる教師が増えるでしょう。
- 繁忙期には先生の勤務時間が増え、八時間労働ができなくなり、疲弊しきった先生方は、今まで以上に余裕を持って目の前の子どもに接することができなくなります。子育てや介護も今まで以上に時間と余裕がなくなります。導入には反対です。
- 実際には休めない。
- 残業隠し以外に何ものでもない。かつて、日本軍が敗走を転進、全滅を玉砕と言い換えて、事実を覆い隠したと根は同じだと感じます。教員を増やし、業務を軽減すべきです。私たちは、歴史から学び「ノー」と言わなくては! 変形労働時間制に反対です。
- 夏休みは年休を消化出来る唯一の期間です。この制度が実現したら、いつ年休を消化すれば良いのでしょうか。
- なぜ「変形労働時間制」を用いようとするのか、国が考えているメリット面からも考えてみたいというところ

1. 公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入することについて

賛成 ・ 反対 ・ どちらでもない

2. 安倍政権が、公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入しようとしていることについて、あなたの声をお寄せください。



が正直なところですが。ただ、働く私たちの負担が増える「悪法」であるなら、今後教員を
めざす人たちの夢を壊すことだと思います。



- こんな制度を取り入れる意味が分からない。定時の時間を遅くしても、見かけ上の残業時間が減っているだけで、仕事の量は変わらない。働き方を見直せと言われても、仕事の量は変わらず、むしろ増える又は舞い込んでくることの方が多いため無理です。現場の声をもっと聞いてほしいです！
- 勤務のあり方も大切だが、仕事量が変わらなければ、根本的な解決がないのではないかと。教員の数を増やす方が優先だと思う。
- 教員は他のしごとと同じように「繁忙期」と「閑散期」を区別することはできません。労働時間を減らすならば、教員の数を増やすなど、違った形の政策を実施していただきたいです。
- 定数増こそが、そして、教育予算の増額(いい印刷機がほしい!)こそが、私たちの働き方改革につながります。だって、いつだって忙しいんだもん!! 変形労働時間制では何も解決できません。
- 現場では、毎日必死で仕事をしています。そもそもの仕事量や人事的な見直しがあれば苦しむだけです。
- 変形労働時間制というものより、教員の事務的な仕事量の軽減や、学級の児童数の見直し、教員増の方が必要です。
- 現場の声をもっと聞いてください! これでは、働き方改革にはなりません。困ります!!
- ただでさえつらい業務形態を強いられているのにまだ冷遇するのでしょうか? このままだと教師はもちろん、子供たちのためにもなりません…
- 教員の定数を増やして、日々の激務を軽減できるようにしてください。
- 見せかけだけの残業減らしになんの効果もない。そもそも業務削減や定数改善ができていないのになぜ変形労働時間制を導入しようとするのか? 休日のまとめ取りは変形労働時間制じゃなくても可能。休憩もまとまるとれない状態を知ってくれ。
- 変形労働時間制を導入する事で労働時間が短縮できるとは到底思えません。働き方改革というなら、教員の数を増やすしか方法はないと考えます。変形労働時間制導入には、絶対に反対です。
- 普段の業務を減らして人間らしい生活をさせてください!
- 公教育が破綻するとおもう。現実をみてほしい。「寝だめ」ができないように、「休みだめ」もできないと思う。病気休暇をとる教員が更に増えるだろう。一人一人の仕事量をこれ以上増やしてどうするのか。人を増やして、仕事の質を上げていかなければ、日本の公教育の発展は難しい。
- 夏休み中にまとめてなんて無理! なんてそんな発想になるのか、わけわからない。
- 見た目の残業は減るが、仕事の量は変わらないので意味がない。子育て世代の教員にとっては、退勤時刻が遅くなり、改悪である。全体の仕事を減らすか、教員を増やすしか道はない!!! 数字のマジックでごまかそうとしている。
- 長期休業以外は長時間労働もよしとするこのひどい制度の導入には、絶対反対です! 今でさえ長時間なのに、これ以上教員をこき使うつもりですか?! 教員の悲鳴は、子どもたちの悲鳴につながってしまいます!!!
- 本当の現場の状況を知ってほしい!!
- これ以上の超過勤務は、無理です。現場の実態を見て、教職員こそ増やしてください。
- 働き方改革をしても、実質の労働時間は変わらない。本来の残業代を賃金として支払ったらどれくらいの仕事なのかよく分かると思う。(結局、学校を出されて、持ち帰り仕事になってしまいます。)
- 納得できない。即刻、導入についてはやめてほしい。

②変形労働導入に賛成

- 労働時間よりも仕事の中身を精査するべき。もしくは長時間労働に対して、残業代もしくは教員の賃金を大幅に上げるべき。また、教員を増やすという案だが、質の低い教員を増やしても意味はない。教員以外の職をもっと学校現場に取り入れるべきである。



③どちらともいえない

- どうしても夜に実施する保護者会などのだいたいとしてやすみがもらえるのは助かる。短期間では取れないこともあるので、前後の期間を伸ばして欲しい。夜に行われるPTA関係の会議なども、範囲に入れて欲しい。学校祭のお昼1時間だけを、変形労働時間制で休みを取ることにりましたが、仕事は生徒の下校時刻と同時に終わりはしません。結果、数時間そのまま残っている人が多数でした。
- 具体的な見通しを自ら学んでいくことが大切なので、まだ把握しきれていないのが現状です。